令和２年度
宮崎県立日南高等学校
第３学年通信

繋げ！EXCELSIOR

令和２年１２月１１日
第　３１　号

印象に残っている生徒パート３

数学の教員を目指していたＫ君の話。私が初めて３年担任をしていた時の生徒の弟君です。なかなか堅実な性格で、成績も良好でした。志望校は鹿児島大学教育学部教員養成課程数学専攻で定員は５名。受け続けたマーク模試判定は常にＡ判定で、個別試験の数学も得意としておりＡ判定。面談でもう少し難易度を上げて挑戦してみてはどうかと声をかけてみましたが、「いいえ、冒険はしません。確実に行きたいです」とのこと。まあ、考え方は人それぞれです。

センター試験の結果も予定通りで、帰ってきた判定はガチガチのＡ判定。

「前期は鹿児島でしょ？」　「はい！」

「後期はどうする？」　「お任せします」

「前期で合格すると思うけど、もしダメな時はマークミスかもね。それを前提に考えると後期はできるだけ難易度を下げて、定員の多いところにしようか。ショックも大きいだろうから、軽く面接で終わるところにしようかね？」

ということで、後期はＳ大学に出願させました。まあ大丈夫と思っていましたが、実は「定員５」というのが頭の片隅に引っかかっており、気づかないふりをしていたように思います。

そして前期発表日、あれ？番号がない。あれ、見間違いか？

午後に本人がやってきて、番号がなかったと報告してきました。本当だったんだ・・・。

「今から時間あるか？」「はい。」「よし、じゃあ面接練習するぞ。理科室に行こう。」

「それではあなたが本校を志望した理由を教えてください。」「はい。私は将来・・・・」

「数学のどんなところが好きですか。」「はい。数学は解は１つですがそこに行きつく過程は・・・」

「あなたの理想とする教師像を教えてください。」「はい。私の理想とする教師とは・・・」

「前期はどこを受験したのですか。」「はい。鹿児島大学を受験しました・・・。」

そこからみるみる涙を浮かべ始め、

「・・・・悔しいな」「・・・・はい。悔しいです・・・。」

それからしばらく二人して涙を流しておりました。

後期は無事合格し、今では県内の中学校で教師をしています。きっと生徒と喜びや悔しさを共感できる教師になっているものと思います。

月	日	曜	行事予定（３年に関するもののみ）	朝	夕	備考
１２	12	土	土曜講座Ｂ・土輸進路講座	×	×	８：１５校門通過
	13	日				
	14	月	普通授業	○	○	７：２５校門通過
	15	火	普通授業	○	○	７：２５校門通過
	16	水	普通授業・放課後進路講座	○	×	７：２５校門通過
	17	木	普通授業	○	○	７：２５校門通過
	18	金	普通授業	○	○	７：２５校門通過
	19	土				
	20	日				
	21	月	特編授業（午前）＋代ゼミ白パック（午後）	○	×	７：２５校門通過
	22	火	特編授業（午前）＋代ゼミ白パック（午後）	○	×	７：２５校門通過
	23	水	特編授業（午前）＋代ゼミ白パック（午後）	○	×	７：２５校門通過
	24	木	特編授業（午前）＋代ゼミ白パック（午後）	○	×	７：２５校門通過
	25	金	終業の日・進路内定者集会	×	×	８：１５校門通過
	26	土				